

## 令和4年度自己評価結果について

## 1. 「令和4年度の目標（内容）」についての反省・意見

## (1) 園児獲得に向けた取り組みを強化する

- ① SNSを活用し、広告掲載による未就園児サークル等や園開放の集客、園の様子を外部へ発信する。
- ② 園の情報発信としての内容の工夫（園だより、ホームページ、ドキュメンテーション、SNS等）

## 《園児獲得について》

- ・未就園児サークルや園開放について、SNSで園の様子を投稿したり広告を掲載したり、インターネットでの申し込みができるようにしたことで集客につながったと感じる。
- ・SNSに投稿について、反響がこちらまで聞こえてこないの、園児獲得につながっているか実感があまりない。未就園児サークルや園開放で直接職員と話すことで入園を決める保護者が多いように思う。
- ・フォロワー数が増えてきているので、外部からの注目度は少しずつ上がってきているのではないかと。

## 《園だよりについて》

- ・園だより等のペーパーレス化は業務・資源の削減になり良い。
- ・ペーパーレス化できちんと読んでもらえているのか気になる。

## 《ホームページについて》

- ・リニューアルしたことで以前よりも見やすくなった。
- ・おが〜るシステムで保護者への配信が可能のため、ホームページで在園児向けのページでの配信をする必要はないのではないかと。ホームページ担当者の更新の手間も減ると思う。

## 《SNS投稿について》

- ・動画の機能も利用し子どもたちの表情がより伝わりやすく発信することができた。
- ・各部署で投稿曜日を割り振りしたことで様々な様子を発信することができた。
- ・調理をしている様子など動画にあげてもらえてよかった。保護者にも給食をより身近に感じてもらったのではないかと。
- ・保護者に喜んでもらった様子がおたより帳で伝えられた。

## 《SNS投稿への課題》

- ・各部署の投稿回数にばらつきがあるため、個々の意識づけは必要である。
- ・どの職員も扱えるように作成方法を学ぶ必要があると感じる。
- ・もっと動画の投稿ができればよかった。
- ・各学年が定期的にバランスよく投稿できるように計画していたが、行事が立て込んでくると投稿せずに終わってしまったり、ドキュメンテーションや園だよりとの内容の重複に配慮するための労力がかかってしまったりしたことは課題である。
- ・給食調理工程やメニュー表示もよいが、子どもたちがおいしく食べている様子も一緒に投稿しても良いと思う。
- ・給食の SNS 投稿は、給食室の職員がローテーションで行ったほうが、それぞれ個性が出て見ている側も楽しいと思う。

## (2) 一人一人に寄り添う保育を考える

- ① 0～2歳児を中心に、月齢や個々の発達に合わせた小グループ制保育
- ② 指導計画の見直し（0～5歳児までの継続した育ち）

## 《小グループ制保育への取り組み》

- ・月齢による保育室移行によって少人数体制となり、余裕をもって保育することができた。
- ・月齢や個々の発達に合わせた保育は子どもの育ちにも良い影響があったと思う。
- ・取り組みへの課題については、その都度検討、改善し、子どもたちの育ちに寄り添う基盤ができた。
- ・新しい試みで試行錯誤する面もあり保護者も戸惑いはあったと思うが、子どもたちは逞しく環境の変化に順応していた。制度が定着し、子どもたちにとって良い結果となるよう取り組んできた。
- ・導入の年ということで様々な課題が見えたが発展していくためには必要な過程だったと思われる。次年度もさらに細かい話し合いや意見交換をしつつ進めたい。

## 《小グループ制保育の課題》

- ・職員間の共通理解ができるまで時間がかかり、動き出すことで課題が見えてきた状態だった。
- ・保育を進めるにあたり、保護者への説明が不十分ではなかったため、混乱させてしまった。
- ・個々の発達を意識した保育ではあるが、職員間で発達の目安について共通理解していなかった。新たに表を作成したことで共通理解ができたので、職員間で話し合いながら一人一人に寄り添っていききたい。
- ・月齢で保育室を移行するため、だれがどこの部屋で保育を受けているのか、担任はどのクラスに入っているのかわかりづらかった。

## 《一人一人に寄り添う保育》

- ・個別配慮が必要な子に対する職員配置に工夫が必要である。

- ・子ども一人一人の育ちに合わせ寄り添った保育の大切さを感じる中で、適切な保育のあり方に難しさを感じた。
- ・誰が担当しても問題なく保育できるよう情報共有をこまめにしておくことが大切である。

#### 《継続した育ち》

- ・2・満3歳児クラスは、延長保育や土曜保育で3歳以上児と生活が一緒になったため、スムーズに3歳児への移行ができると思う。
- ・2歳児から3歳児への進級時には、未満児職員から以上児職員への引継ぎと情報共有をしてほしい。
- ・サポート職員として具体的な内容を理解していなかった。必要に応じて伝えてほしい。

#### 《指導計画の見直し》

- ・前年度の終わりに年間計画を反省、見直したことで、年度当初より子どもの育ちを具体的にイメージしながら保育することができた。また、年齢に添った育ちだけでなく継続性も意識した内容に見直すことができた。
- ・3～5歳児の育ちの継続を念頭に見直しをしたが吟味までは至らなかった。内容については学年ごとに吟味したので、今後も継続した育ちの部分の見直しは必要だと思われる。
- ・3歳以上児と3歳未満児の保育の内容や現状を互いに理解していく姿勢が求められる。
- ・指導計画では子ども一人一人の発達を捉えることが足りないと感じた。子どもの発達を見据え、その子の成長に合った計画を立てていきたい。

### (3) 業務内容の簡素化に努める

- ①時間外勤務を削減するための行事等の業務内容や役割分担の見直しをする
- ②園内外の管理、整理整頓への意識を高め、仕事がしやすい環境を意識する

#### 《時間外勤務の削減》

- ・時間内での勤務で仕事をこなすことができた。先輩に支えられながらも業務に早めに取り掛かり役割分担をして行うことができた。
- ・職員間で声を掛け合い、クラスが落ち着いている時間に業務に当たれるように工夫した。
- ・以前より早く退勤する職員が増えたと思う。行事の在り方が変わったことで業務の見直しができるところもある。
- ・行事前になるとどうしても業務内容も増え役割分担をして取り組んでも時間外勤務をすることが多かったように思う。
- ・午睡の時間や園児の欠席が多い日を使って、業務を行うようにしたが時間が足りない。保育を終えてから時間外で行っている。
- ・自身の仕事の効率の悪さから時間外勤務になることがあるので、やるべきことの順序を組み立てながら頑張りたい。
- ・ドキュメンテーションや SNS の投稿は、時間が取れない上、慣れないため時間もかかり、時間外に仕事をすることもあった。
- ・全体的に時間外勤務を削減する意識は高まっているが、定時で退勤している職員は少ない。時間外勤務は無いことが前提ではあるが、申請しやすい環境も必要である。

#### 《業務内容の見直し》

- ・仕事の役割分担をし、業務が簡素化できた。
- ・行事の役割分担がうまく機能しなかったため、年間の分担表を作り割り振りをしていきたい。
- ・行事の係の仕事量が多く負担である。準備物や手紙等の見直しをして簡素化していきたい。
- ・3歳以上児クラスから3歳未満児クラスに異動し、思いのほか事務等に充てる時間が無いことに気づく、という声を聞く。どの部署も大変さに変わりはなく、業務の見直しによって職員の負担軽減を図っていく必要があると思う。
- ・パソコンを使っての作業が増えたが、得意ではないため時間がかかってしまった。今後は効率的に進められるように勉強していく必要がある。
- ・職員同士のコミュニケーションを図り仕事をしやすい環境づくりをしていきたい。
- ・時間内に給食の提供ができたが、5人体制での仕事は気持ちに余裕がなかった。仕事がしやすい環境にするためには改善が必要だと感じる。
- ・保育サポート職員が他の業務も兼務していたため、保育に入ってもらえないときがあった。

#### 《業務削減》

- ・バス添乗の職員を1名採用、ICT化導入により、業務削減が進んだ。
- ・ICT導入で登降園の管理については、名簿作成や打ち込み作業の業務が削減された。
- ・ICT導入は稼働開始時こそ過負担に見えがちだが、先を見据えて必要な負荷であると思うので少しでも負担が減らせるように率先して取り組んでいきたい。
- ・0歳児の個別日誌の見直しをし、業務削減につながるよう努めた。
- ・クラスを持つ職員がシフトを作るのは負担が大きすぎるのではないか。
- ・タブレット環境を整えると書類の管理や SNS の活用がしやすくなると思う。

#### 《備品の管理》

- ・整理整頓がしやすい物の配置、工夫が進められた部分もあった。アイデアが出し合われていて良い。
- ・物品の管理については物の定位置を決めたことで整理整頓がされてきているが、共有のもの、場所を使用している認識に個人差があるため、互いに意識を高めていく必要がある。
- ・消耗品が無くなる前に発注しやすいように、発注先や発注担当が分かりやすい表示をするとよいのではないか。

2. 園の取り組みについての評価（自己反省も踏まえて） 回答…54名

- A 十分達成されている  
 B 達成されている  
 C 取り組まれているが、成果が十分でない  
 D 取り組みが不十分である

観 点 評 価 の	評 価 の 項 目	評 価	評 価 項 目 の 取 り 組 み に つ い て
教育・保育理念	建学の精神 諸規則の理解と実践 教育・保育方針	A 2名 B 52名 C 0名 D 0名	<p>【建学の精神 教育・保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神をしっかりと再確認し、愛情をもって目の前の子どもたちに接することができた。</li> <li>・年度当初に教育・保育方針を振り返り、共通理解ができた。</li> <li>・教育・保育理念を保育室の見やすいところに貼ってあるため、定期的に確認することができた。</li> <li>・諸規則については年度途中で再度確認の必要があると感じる。</li> </ul> <p>【教育・保育運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画や月、週案に基づき、子どもたちがのびのびと心豊かに成長していけるような保育環境を目指して取り組んだ。定期的に見直しを行いながら、子どもや時代に合わせた保育を行っていききたい。</li> <li>・学年リーダーが中心となり、目標や方針を達成するための的確な指示や指導をし、一丸となって取り組んだほうが良い。</li> <li>・人と人のつながり、思いやりを大切に園生活での学びが園と家庭で次につながるよう一緒に取り組めると園児の自信になると思う。</li> <li>・大切にしなければならない根本の部分と時代に合わせて変えていかなければならない部分をしっかりと捉えていけるようにしたい。</li> </ul>
子どもの発達 援助	保育の在り方 児童への対応	A 5名 B 43名 C 6名 D 0名	<p>【教育・保育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を促したり、楽しめる環境を作ったりできるよう努めた。</li> <li>・保育者の思いが先行したり主体的になったりしないよう心がけた。</li> <li>・様々な素材を準備し子どもたちが意欲的に遊べる環境構成を学び充実化を図りたい。</li> <li>・学年間でその都度情報共有を図りながら保育を進めたり、課題を考えながら進めたりしたこと、クラス間で大きな差が生じることなく、学年でまとまりをもって保育を進めることができた。子ども一人一人に応じた援助や配慮も丁寧に行う中で、個々の育ちにも重点を置いて日々保育することができたと思う。</li> </ul> <p>【不適切な保育の防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切な保育について職員間で話題を掘り下げる時間があってもよかった。これまで行ってきた保育が他者から見たときに適切であるか見直すことで保育の在り方をアップデートさせることができると思う。</li> </ul> <p>【小グループ制保育への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループ制保育の方向性が定まらず成果につながらない部分があった。</li> <li>・小グループ制保育を取り入れてよかった。</li> <li>・一人一人の子どもを尊重し、子どもの姿や思いに寄り添った保育を心掛けた。</li> <li>・年齢にかかわらず、相手を尊重して信頼関係を気づいていかなければならないと思う。</li> </ul> <p>【配慮が必要な子へのかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な園児については、職員間で成長の様子や支援の仕を共通理解した上で関わるようにした。</li> <li>・滝沢市の巡回相談を受けることで、配慮が必要な子への対応については保育者も子どもも良い方向に進んでいる。</li> <li>・一人一人に合った援助を心がけたが、発達特性のある子が複数いたり、クラスの人数が多かったりして寄り添えない部分もあった。育ちの保証ができたか、悩みながら保育した。</li> <li>・行事が近づいたり重なったりすると落ち着かない生活の流れになり、配慮が必要な子を急かしてしまったり、気持ちを切り替えられないまま活動を進めてしまったり、ということがあった。保護者が子どもから遊びが十分でないことを聞き、不安を感じさせてしまうことがあった。</li> </ul> <p>【職員の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午後の保育担当とクラス担任間の連携を大切にしながら子どもと関わった。</li> <li>・アレルギー対応や食材の食べすすめ等、職員同士で声を掛け合ったり、表を作成したりして共通理解をしていきたい。</li> </ul>
	危機管理	A 8名 B 42名 C 4名 D 0名	<p>【事故・ヒヤリハット報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の確認不足による誤食があった。食の進みがわかるよう早見表を作成したり前日に除去品目を確認したりして対策を講じた。</li> <li>・保育中に起きたヒヤリハットの事例をクラス内で共有し、対策を検討し報告することができた。</li> <li>・ヒヤリハットや事故報告があった際、会議で職員が共有できるようになっていることで、自分自身が考えたり、注意したりすることができ、事故防止に繋がっていくと思う。</li> <li>・事故報告が少ないことはよいと思うが、もっとヒヤリハット報告があればより良い安全対策につなげることができると思う。些細なことでも伝え合う姿勢はもっと増えるべきである。</li> <li>・園バスの置き去り事件を受け、安全管理の徹底について具体的に確認した。</li> </ul>

	<p>保健衛生</p> <p>安全教育に対する取り組み</p>	<p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに危険な遊び方や物の使い方などを伝えながら自分たちで気づいて遊べるようにかかわった。</li> <li>プール活動が始まる前に、養護教諭からプライベートゾーンの講話を子どもたちにしてもらった。子どもたちにわかりやすく伝える機会を設けることができた。</li> </ul> <p>【コロナ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養護教諭や看護師の指導により保健衛生面の取り組みを進められている。</li> <li>コロナ対策や衛生面について最新の情報をもって対応できたと思う。</li> <li>コロナ対策で座席や午睡場所のチェック、マスク保管用のジップロックの消毒を毎日行った。</li> <li>パーテーションを使用することにより、感染予防をすることができたように思う。</li> <li>感染症予防を徹底して行い、保育室の消毒や室温・湿度の管理等配慮した。感染症の拡大が見られた際は遊び方や過ごし方を工夫しながら過ごすことができた。</li> <li>手洗い、消毒がきちんと身につけてきたが手指のひび割れがある子が見られるのが気になる。</li> <li>胃腸炎が流行した際に、処理の仕方に戸惑ったため、定期的に研修が必要である。</li> </ul> <p>【体調不良児型病児保育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病児保育の体制が整ったことで保護者もより安心感をもって子どもを園に預けることができるようになったと思う。</li> </ul> <p>【避難訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の避難訓練を行うことで子どもたち以外にも職員が危機管理を見直すきっかけになっている。</li> <li>毎月避難訓練をし、職員の動きの確認が取れている点はよいが、事前に避難準備をして訓練に臨むこともあり、突然の避難となった時にどうするのかという不安が残る。</li> </ul>
<p>子どもの発達援助</p>	<p>様々な生活リズムや年齢の児童への配慮</p> <p>A 9名 B 42名 C 3名 D 0名</p>	<p>【長時間保育の園児への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長時間の保育を受ける子が増えてきているため、言葉がけや過ごし方の工夫、体調面の配慮をしている。</li> <li>3歳児は午睡時間を早めに始められるよう取り組まれた。</li> <li>子どもの家庭環境や生活リズムを把握しながら適切に対応していけるように努めることができた。</li> <li>課外体育教室を受講している園児（特に3歳児）は、その後の午睡時間が十分に取れずに落ち着かなかったりぐずったり様子がある。3歳児は入会時期を3学期にできないだろうか。</li> </ul> <p>【異年齢や発達に合わせた保育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢と一緒に過ごす際には、給食の時間や午睡の時間をずらす、遊びのコーナーを分ける等の配慮をした。</li> <li>2歳低月齢児と1歳高月齢児は、月齢は近いとはいえ目指すところが違うため一緒に保育する難しさを感じた。</li> <li>ミルクや睡眠の時間を整えたり、子どもの体調に合わせて保育をしたりするなどの配慮をした。</li> <li>子どもの月齢に合わせて離乳食を進めていくことができた。</li> </ul> <p>【配慮が必要な子どもへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な育ちの園児がいる中で、職員が一人一人を丁寧に見て関わっていると感じる。</li> <li>配慮を必要とする園児に対して専門機関と連携を図り、職員間で情報共有をしながら取り組んでいる。</li> <li>個別支援が必要な子が増えてきているが、集団の中で一緒に取り組める子、個別にサポートが必要な子と、個々に合わせた援助が難しかった。個別支援が必要な子へは、複数の職員でサポートできるような環境を工夫するとともに、すべての園児の育ちを保證できるような職員間の連携を図りたい。</li> </ul> <p>【保護者との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者から家庭での様子を聞くこと、直接話す機会を設けることを大切にしたい。</li> <li>登園時間が遅く、生活リズムが整わない子どもの家庭には、家庭の様子を詳しく聞きつつ、就学後の生活がイメージできるよう伝えながら援助した。</li> <li>きめ細やかな個別の対応を行うため、家庭での様子や体調など保護者と日々情報共有していくことが大切だと感じた。</li> </ul> <p>【職員の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ学年や部署の職員との共通理解を大切にしたい。</li> <li>それぞれの意見の違いもあり、個々の子どもへの対応に迷う時があったので、その都度意見交換をしながら対応できるように改善していきたい。</li> </ul>

子どもの発達援助	行事への取り組み	<p><b>A 13名</b> <b>B 40名</b> <b>C 1名</b> <b>D 0名</b></p> <p>【コロナ禍での取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあったが最善を考え取り組めた。天候により中止となったものもあったが保護者の理解を得られるよう具体的な説明をするよう今後も気を付けていきたい。</li> <li>・集会を開くことができない期間は、各クラスでの伝え方が大事になってくるので、保育者それぞれの知識の向上が必要だと感じた。</li> <li>・感染症対策をしながら、集会活動が増えたことで、子どもたちが少しずつ話を聞けるようになってきた。</li> <li>・コロナ禍で行事の見直しをすることでできた。今後は、今までの良いところは継続しつつ、さらに見直しながら取り組んでいきたい。</li> </ul> <p>【子どもの育ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが経験する内容が極端に少なくならないよう配慮できたと思う。</li> <li>・子どもたちが主体となって楽しみながら取り組めるように意識して行うことができた。</li> <li>・運動会や発表会等、子どもたちの力を伸ばしながら保護者にもその成長が伝わることを意識して取り組む中で、子ども一人一人が自信を持ったり達成感を味わったりしていた。また、行事への取り組みの中で、友達とのつながりを深めたりクラスがまとまっていったりと様々な成長が見られた。</li> <li>・3歳以上児が行事に取り組んでいる姿を3歳未満児が見ることでお互いに良い刺激になっていると思う。</li> <li>・行事に向けて取り組んでいる時期は、午後の保育で落ち着きがない様子が見られるので優しく寄り添うように心がけた。</li> </ul> <p>【行事への取り組み方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿にあった行事の取り組み方であるかは見直す必要があると思う。保育者の思いが先走っていることがあるため、子どもたちがその時に好きなことや、子どもたちが主体的に取り組むことができることを中心に考えて取り組んでいきたい。</li> <li>・子どもたちの姿や興味をもっていることを行事の中に反映させながら取り組むことを意識した。普段の保育と行事への取り組みがつながっていくよう保育計画や準備、振り返りを行った。</li> <li>・今の子どもたちの姿を捉えながらその時の環境や状況にあった取り組みをしていきたい。</li> <li>・低月齢、低年齢の子どもに対し、発表会、運動会のための練習をさせるのではなく、普段の生活や遊びの延長で完成度を高め、できた喜びを感じさせることも必要だと思う。</li> </ul> <p>【職員の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が行事に向けて一生懸命に取り組んでいる姿を見る。</li> <li>・行事前は係の職員がやることが多く負担が大きいと思う。もっと係の人数を増やし、分担をした方がよい。</li> <li>・行事への活動を進める中で、毎日保育者間で保育を振り返り、子どもたちが無理なく取り組めることを第一に考えながら保育を行った。</li> </ul>
	食育への取り組み	<p><b>A 17名</b> <b>B 36名</b> <b>C 1名</b> <b>D 0名</b></p> <p>【栽培・収穫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培、収穫した野菜を使ってクッキングをしたことで、子どもたちにもわかりやすく好き嫌いなく味わって楽しむ取り組みができた。</li> <li>・用務の職員が園舎裏の畑やプランターを準備してくれたことで気軽に食に目を向けることができた。偏食気味の子たちが、春に種を触ることさえ嫌がっていたが、秋に土を掘って芋掘りができるようになるまで楽しめたことは、1年間の食育体験による成長だと思った。</li> <li>・田植えや稲刈りなど5歳児ならではの食育活動に取り組むことができ、食に対する関心を持つ子が増えた。</li> <li>・苗植えをした野菜の収穫やそれを食する活動等をもっと積極的に行うべきであった。</li> </ul> <p>【クッキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クッキングでは、食に興味をもてるような内容を考えたり楽しい雰囲気の中で食事をしたりすることができた。</li> <li>・クッキングの経験により、家庭の食事にもつなげることができた。</li> <li>・去年から味噌づくりを始め、クッキングも幅が広がってきたように感じる。一年を通しての取り組みができてくると食への意欲も増えていくのではないかと感じる。</li> <li>・0歳児のうどん作りでは、体全身を使い感触を楽しみながら取り組むことができた。</li> <li>・クッキングの内容が年齢や興味に合っていて栄養士の話も分かりやすく工夫されていたため子どもも喜んで取り組んでいた。</li> <li>・調理室の職員がクッキングに参加したり、食に関する話をしたりすることで、子どもたちが身近に感じながら取り組んでいた。</li> </ul> <p>【食育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食時に「頑張って食べようね」「頑張ったね」と言葉をかけがちだが、「美味しいね」「美味しかったね」と言って食べる楽しさを感じられるようにしたい。</li> <li>・箸や食器の持ち方など、マナー面を繰り返し伝えることができた。</li> <li>・マナーや感謝の気持ちを伝えるとともに、食事の大切さや喜びを知ってほしい。</li> <li>・日頃給食の食材が自分の体にもどどのような働きをするか、行事食にどのような意味が込められているかをこまめに伝えて関心を高めるようにしている。</li> <li>・給食は黙食のため楽しんで食べる工夫がなかなかできなかった。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・作ってくれた人への感謝の気持ちを持ってもらい苦手なものでは一口でも食べてもらうように声をかけて対応するようにした。</li> <li>【会議】</li> <li>・今年度から始めた月一回の食育会議では、各学年の給食の様子や食育活動等を報告し合い、情報共有ができた。</li> <li>・食育会議は3歳以上児の担任からも給食の様子を聞くことができ良かった。給食会議は給食室から伝えたいことを話すので、栄養士だけの参加でよいのではないかと感じた。</li> <li>・給食室の職員に、給食の様子を見に来てもらいたい。</li> <li>・SNSで給食の紹介や作る工程をアップするのは良いと思う。また、発信することで食育に力を入れていることが伝わっていると思う。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">保護者に対する支援</p>	<p style="text-align: center;">保護者・地域への対応</p>	<p style="text-align: center;">A 9名 B 40名 C 5名 D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【保護者との連携】</li> <li>・3歳以上児では、午後の保育について担当職員が固定されたことで、午前中の保育の様子を引き継ぎやすく、保護者とも連携しやすかった。担任と午後の担当職員とで、学年目標や援助について共有する機会をもっと持つことができればよかった。</li> <li>・保護者とは子どもの情報を共有しながら密に連絡を取り合うことで、家庭環境への配慮なども併せて行うことができている。</li> <li>・保護者が安心して子どもを預けられるよう明るく言葉がけをするように心がけた。</li> <li>・アプリで欠席連絡ができるようになったが、詳しい症状の聞き取りができなくなり、電話対応が必要である。</li> <li>・発達が気になる子の保護者には園での様子を詳しく伝え、滝沢市の巡回相談につなげることができた。</li> <li>【保護者の意見等への対応】</li> <li>・保護者から要望や意見があったときには自分たちの対応の仕方を振り返り真摯に対応するよう心がけた。</li> <li>・保護者と信頼関係を築く上で、園の方針や生活について十分な説明をし、理解を得ること、また保護者の状況や気持ちに寄り添った丁寧なかかわりが大切であることを再確認した。</li> <li>【保護者支援】</li> <li>・保護者支援は職員全体で共有しながら進めていきたい。</li> <li>・子育てに悩んでいる保護者が多く必要に応じてアドバイスをしたり寄り添ったりするようにした。</li> <li>・提出物や行事の日程、持ち物など、保護者の支援が必要な家庭があり、子どもが困らないようあらかじめ声をかけてお知らせするように配慮した。</li> <li>【地域とのかかわり】</li> <li>・地域交流は社会情勢を見ながら少しずつ以前のように取り組んでいきたい。</li> <li>・地域の方々とは保育中にお散歩を通して挨拶する程度であったが、子どもたちの元気な姿や声を通して子どもの成長を見守ってもらえるよう努めていきたい。</li> <li>・昨年度よりも、園開放や行事で地域の方や保護者が来園する機会が増え良かった。</li> <li>・地域の方の理解と協力を得ながら信頼される園（職員）でありたい。</li> <li>【園の情報発信】</li> <li>・SNSの活用の効果などもあり、社会に開かれた施設となっているように感じる。保護者も現代に沿った形で園内の様子を知ることができ、保育の様子が伝わりやすく、良い傾向だと思う。</li> <li>・ホームページのリニューアルやドキュメンテーション等で園の様子やクラスの様子が発信されこれまで以上に保護者の安心感につながったと思う。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">保育を支える組織的基盤</p>	<p style="text-align: center;">研修への取り組み</p>	<p style="text-align: center;">A 8名 B 40名 C 6名 D 0名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【外部研修】</li> <li>・オンラインでの研修が充実してきていることで園内にいながら外部研修を受講できている。</li> <li>・外部研修に参加し、外部からの学びの大切さを再確認した。外部研修において保育意識を高める機会、園内研修で園としての保育を振り返り、話し合ったり課題を見つけたり、全体で言葉を交わしながら共通理解していく機会がもっとほしいと思う。</li> <li>・研修会には積極的に参加し、情報共有することで保育の質を高め合えるように意識することができた。また、キャリアアップ研修にも十分に取り組むことができ、専門性を高めたり深めたりしていくきっかけとなった。</li> <li>・研修を受講し今の時代に合った保育を考えることができた。</li> <li>・研修に参加しても職員の意識が変わらなければ実際の保育に活かされないのではと感じる場面があった。知識を生かす意識改革が必要だと思う。</li> <li>【園内研修】</li> <li>・園内研修は各学年で子どもの姿を振り返り話し合える機会となった。しかし、3歳以上児と3歳未満児との情報共有の時間が取れなかった。</li> <li>・園内研修は、職員一人一人の意欲や目的意識をもって取り組んでいけるとさらに良い。</li> <li>・毎年1月の園内研修では、外部講師の方を呼んでいただけなので有意義な時間になっており楽しみにしている。</li> <li>・3園合同調理員研修では、交流を深めるとともに、食中毒や作業工程の手順について再確認することができてよかった。</li> </ul>

保育を支える組織的基盤		<p>【研修報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の報告が書面中心のため、口頭報告の機会があると研修の内容を園全体で具体的に把握することができ、活用の幅も広がると思う。</li> <li>・他の職員が受けた研修の報告をしっかりと読みたい。</li> </ul> <p>【研修への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSの投稿やパソコン作業について、だれでも行えるようIT研修があるとありがたい。</li> <li>・育ちや発達の違いに寄り添うために専門家から学びたい。</li> </ul>
	<p>施設整備・管理</p> <p>職員処遇</p> <p>出納管理</p>	<p>A 6名</p> <p>B 43名</p> <p>C 5名</p> <p>D 0名</p> <p>【施設整備・管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備は必要に応じ優先順に行っていると感じる。</li> <li>・子どもたちが楽しめるより良い環境になるよう様々整備されている。</li> <li>・施設監査をきっかけに保育環境を見直し整えることができたので、今後も維持していけるよう一人一人が意識していくことが大切である。</li> <li>・修繕が必要な箇所は迅速に対応しているため、安全な環境を維持できている。</li> <li>・給食室内の不備はすぐに報告し、対応してもらったようにした。</li> <li>・手作り玩具が増え、収納の少なさからテラスに棚を増やした。保育者の導線が少なくなり、保育の体制が整いやすくなった。</li> <li>・用務の職員にドアやベビーフェンスの不具合をすぐに直してもらったり、危険個所に子どもが入り込めないような対応してもらったりしてありがたかった。</li> </ul> <p>【備品管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラの台数が不足、使用したいタイミングで使うことができず個人のカメラを使用している職員もいる。台数を増やした方が良いと思う。</li> <li>・パソコンやカメラ、様々な物品を使ったままにしている職員がいるので、使ったものは元の場所に戻すということを徹底していきたい。</li> <li>・掃除を丁寧に行ったり、玩具の使い方を子どもたちと一緒に確認しながら長く大切に使えるように意識したりした。</li> <li>・おが〜るシステムの導入でICT化が進み、パソコンの台数が大幅に増えたことで、保育後の業務がやりやすくなっている。</li> </ul> <p>【職員処遇】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ関係で出勤できないことが何度かあったが、その都度シフトを調整してもらい、とても助かった。自分が休んだ分、他の職員のとときにはフォローしようという気持ちになった。</li> <li>・家庭の事情に配慮した勤務形態にもらっていると感じる。</li> <li>・気持ちよく働ける環境が、児童、家庭にも安心して利用してもらえることにつながると思う。</li> <li>・残業について改善を求める声が聞こえてくるため、継続して対策を考えていくと良いと思う。</li> </ul> <p>【職員同士のかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が考えていることをもっと気軽に発信できるよう、聞き手にまわったり肯定したり、自分がサポート役にまわられるようになりたい。</li> <li>・同じ学年の職員がとても温かく、親身に話や相談を聞いてくれたことで楽しく業務にあたることができた。</li> </ul> <p>【業務への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園システムの導入により、全職員が子どもの登降園の確認作業がスムーズにできている。</li> <li>・計画的に効率よく仕事ができている。</li> <li>・締め切りまでに集計を提出できるよう計画的に業務を進めた。</li> </ul>

### 3. 令和5年度の目標 ※次年度への意見等を参考に立案

目標	内容
一人一人に寄り添う保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達理解と小グループ保育の定着</li> <li>・「こんな保育を展開したい」という思いの共有と適切な保育の取り組み</li> <li>・保護者に寄り添った情報共有と発信</li> </ul>
働きやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが安心して発信や行動ができる職場づくり</li> <li>・職員間のコミュニケーションの円滑化</li> <li>・職員一人一人が活かされる職場を目指す</li> </ul>
保育業務支援システム「おがーるシステム」の活用と業務削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おがーるシステムの操作方法の取得（誰もが操作できるように）</li> <li>・システムによる業務の効率化を目指し、意見交換や共通理解をする</li> <li>・SDGsを意識した取り組みにつなげる（経費節約）</li> </ul>

## 施設関係者評価についての報告

令和5年3月7日に施設関係者評価委員会を開催し、「令和4年度ふじなでしこ こども園自己評価」「令和5年度の目標」について評価をした。

### 1、「令和4年度ふじなでしこ こども園自己評価」について委員の意見

#### (1) 園の情報発信について

- ① ペーパーレス化は良いと思う。保護者が読んでいるかどうかについては、保護者が自ら閲覧するためにアクセスするというアクションが大事であり、自分の子どもに関わる部分がきちんと伝わればよい、と割り切ることも必要である。未読にならないように浸透のさせ方は考えたほうがよい。
- ② ふじなでしこの園だよりは素晴らしいと思う反面、ペーパーレス化は残念でもある。親は忙しい時こそ紙媒体であると手に取ってみようという気持ちになるようだ。
- ③ 紙媒体で園だより等を欲しいという家庭には、保護者会事業として、玄関にプリントアウト用のプリンターを設置し「ご自由にどうぞ」という形で利用してもらおうのはどうか。
- ④ ドキュメンテーションは紙媒体での掲示でタイムリーに見てもらえるが、SNS やホームページで自由に閲覧できる策があっても良いかもしれない。写真を使って育ちの確認ができることは良いと思う。
- ⑤ SNS 等で集客が増え園児が増加したというよりも、実際に来園し職員と接することで入園を決めていると思う。SNS やホームページなどにどのような情報が掲載されるとよいか来園者にアンケートを取ることで「園についての Q&A があるとよい」「園の様子が分かる写真がもっとあってほしい」など参考になる点が挙げられるかもしれない。
- ⑥ SNS の投稿については、不得手な職員にもしっかりフォローを入れてほしい。

#### (2) 食育活動への取り組みについて

- ① 食育への取り組みは充実していて良い。
- ② 味噌づくりや芋掘りなどについては、栽培、収穫、クッキングへつながる活動になるよう企画されていて良いと思う。

#### (3) 一人一人に寄り添う保育への取り組みについて

- ① バスへの置き去り等の事故や事件で不適切な保育について取り上げられたが、それについて職員同士で考えているのは良いことだと思う。
- ② 職員がどの子の名前も覚えて名前を呼びながら挨拶をしていて、素晴らしいと思う。
- ③ 子育てに悩んでいる家庭には、民生委員や主任児童委員に相談できることを伝えてほしい。
- ④ 滝沢市の巡回相談については、園だよりで実施日のお知らせがあるが、内容について十分理解していない保護者も多いように感じる。保護者にもっと具体的に伝えてもよいのではないか。

#### (4) 業務改善について

- ① ICT のシステム導入については、今いろいろと使い方について探っている時期だと思う。新採用の職員にも入職時に覚えなければならないこととして、しっかり教えていってほしい。
- ② システム導入に伴い、パソコンの台数が増え、業務遂行しやすくなったのは良い。

#### (5) 研修について

- ① リモートやオンラインでの研修の受講については、職員の意識の高さを感じる。
- ② (特に若い) 職員が作成する文書での文章力が気になる。丁寧すぎて大事な部分が伝わりづらい。文章力を付けるために読書をするなどの自己啓発も大事ではないか。

### 2、令和5年度の目標について委員の意見

- この目標(内容)で1年間取り組んでいってほしい。